

平成30年度小田原市一般廃棄物の処理計画

本計画は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年法律第137号）第6条第1項の規定に基づき、平成30年度の一般廃棄物処理計画を定めたものである。

平成30年4月1日

小田原市長 加藤 憲一

1 区 域 小田原市全域

2 一般廃棄物の年間発生量及び処理量の見込み

(1) ごみ

総発生量 69,579 トン 総処理量 69,579 トン

(ごみ内訳)

ア 家庭ごみ

区 分	発生量	処理量
収 集 ご み	52,228 トン	52,228 トン
燃 せ る ご み	34,718 トン	34,718 トン
紙 ・ 布 類	9,949 トン	9,949 トン
ペットボトル	681 トン	681 トン
缶・ビン類 <small>（リサイクル表示のあるもの）</small>	1,998 トン	1,998 トン
か ん 類	540 トン	540 トン
び ん 類	1,298 トン	1,298 トン
燃せないごみ	2,452 トン	2,452 トン
蛍光灯ほか	261 トン	261 トン
大 型 ご み	331 トン	331 トン
直 接 搬 入 ご み	1,734 トン	1,734 トン
家 庭 ご み 計	53,962 トン	53,962 トン

イ 事業系ごみ

区 分	発生量	処理量
特 定 収 集	446 トン	446 トン
直 接 搬 入	15,171 トン	15,171 トン
事 業 系 ご み 計	15,617 トン	15,617 トン

(2) 動物の死体

区 分	発生件数	処理件数
小動物（持込）	1, 5 0 8 件	1, 5 0 8 件
小動物（収集）	1, 5 7 3 件	1, 5 7 3 件
計	3, 0 8 1 件	3, 0 8 1 件

(3) し尿及び浄化槽汚泥

区 分	発生量	処理量
し 尿	1, 7 2 5 kℓ	1, 7 2 5 kℓ
浄化槽汚泥	2 4, 3 1 5 kℓ	2 4, 3 1 5 kℓ

3 一般廃棄物の排出抑制等の実施施策

(1) ごみ処理

ごみ処理については、発生抑制・再使用に重点を置いたごみの減量化の推進、ごみの分別と資源化の更なる推進、安心・安全なごみの適正処理の推進、きれいなまちづくりの推進を施策の柱に、ごみの減量化、資源化を推進する。

ア 発生抑制・再使用に重点を置いたごみの減量化の推進

(ア) 環境情報誌や啓発イベントの開催などを通じての環境情報の提供、啓発活動を推進する。環境教育・環境学習を推進するとともに、市民団体などが実施する環境教育などの活動を支援する。

(イ) 市民と連携を図りながら種々の啓発活動を実施する。生ごみの堆肥化、食品ロスの削減を啓発し、家庭ごみの発生抑制・減量化を推進する。また、国の指針に基づき、燃せるごみの有料化の検討を行う。

(ウ) 事業ごみの排出基準の見直しや制度の適正な運用により発生抑制・減量化を推進する。

イ ごみの分別と資源化の更なる推進

(ア) 紙・布類やプラスチック類の分別の徹底を図るとともに、市民の利便性の確保の観点からも、市民、事業者と協力した有効な回収の方法を検討する。

(イ) 特に紙・布類のリサイクルについては、自治会、小田原市古紙リサイクル事業組合、行政が協力し、市内の紙は市内で処理するための本市独自のルールの中で、更なる資源化の推進を目指す。

(ウ) 特定家庭用機器再商品化法（平成10年法律第97号）、使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律（平成24年法律第57号）等の各種リサイクル法に基づく取組を徹底し、資源化を推進する。

(エ) 剪定枝をはじめとする、資源化品目等の拡大を検討する。

(オ) 不燃物として回収されたプラスチック系の製品を処理した可燃残さの有効利用について研究する。

ウ 安心・安全なごみの適正処理

(ア) 市民の健康や生活環境へ支障が生じないように、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年法律第137号）による一般廃棄物処理業の許認可制度を適切に運用し、継続的、安定的かつ確実な処理を推進する。

(イ) 一般廃棄物収集運搬業者により持ち込まれる事業系一般廃棄物について、

搬入検査を行うとともに、排出事業者への指導を徹底し、適正処理を推進する。

(ウ) 小田原医師会、廃棄物収集運搬業許可業者、市との協定に基づき、感染性廃棄物の適正処理を推進する。

エ きれいなまちづくりの推進

(ア) 環境美化推進員やボランティアなどと連携を図りながら地域からの美化活動を推進する。

(イ) 市民や神奈川県などの関係機関と連携を図りながら不法投棄対策を推進する。

(2) 生活排水処理

生活排水処理については、公共下水道による処理を基本に下水道整備を推進するとともに、下水道全体計画のエリア外については合併処理浄化槽の普及を図り、豊かな水環境を創出する。

ア 生活排水処理施設整備の推進

現在、生活雑排水の未処理放流を行っている汲み取り世帯及び単独処理浄化槽世帯については、河川環境の保全のため、下水道整備済区域では公共下水道への切替えを推進し、下水道事業計画区域外では合併処理浄化槽への切替え等を助成し、合併処理浄化槽の普及を促進する。

イ 生活排水対策に関する啓発


環境情報誌や広報紙などを通じて合併処理浄化槽の適切な維持管理や台所対策についての情報提供や啓発を図る。




ウ 水質汚濁状況の把握

水環境の現状を把握するため、引き続き河川の水質調査及びパトロールを実施し、水質汚濁状況の監視を行う。

4 廃棄物の収集及び処分方法

(1) 家庭ごみ（収集ごみ）

種 類	収 集 方 法		処 理 処 分 方 法	市民等排出者の協力義務
	回 数	収集者等		
燃せるごみ	週 2 回	小田原市又は委託業者	焼却後資源化又は埋立委託業務により実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区ごとに指定する排出日を守り、ごみ集積場所一覧に定める場所（以下「集積場所」という。）に午前 8 時 3 0 分までに排出する。 ・ 集積場所は、収集後に清掃等を行い清潔の保持に努める。 ・ 排出形状は、植木などの刈込みや板屑は長さ 5 0 cm 直径 3 0 cm 以下にひもで束ねたものとする。また、^{せん}剪定枝は、チップ化等を行い減量を図る。 ・ 上記以外の場合には、市が製造する専用の有料指定袋（4 5 ℓ、3 0 ℓ、2 0 ℓ、1 0 ℓ）を使用する。 ・ 紙・布類、ペットボトル、トレイ類・ 表示のあるもの等は、分別し資源物収集等に出す。また、生ごみは、水分を十分に切るとともに、堆肥化等を行うなど減量を図る。
紙・布類	月 2 回	協定による古紙回収業者	資 源 化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区ごとに指定する排出日を守り、集積場所に午前 8 時 3 0 分までに排出する。ただし、雨天のときは、布類を排出してはならない。 ・ 集積場所は、収集後に清掃等を行い清潔の保持に努める。 ・ 新聞紙、雑紙、段ボール、紙パック、その他紙、布類の 6 品目に分別し排出する。 ・ 排出形状は、紙類（その他紙を除く。）にあってはひもで十文字に梱包し、布類にあっては透明又は半透明の袋（4 5 ℓ 以下）を使用する。 ・ その他紙にあっては、紙袋に入れる等し、口をホチキスやセロハンテープ、ひもなどで閉じて、袋の外側に「その他紙」と記載し、排出する。

ペットボトル	月 2 回	委託業者	資 源 化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区ごとに指定する排出日を守り、集積場所に午前 8 時 3 0 分までに排出する。 ・ 集積場所は、収集後に清掃等を行い清潔の保持に努める。 ・ 排出形状は、透明又は半透明の袋（45ℓ 以下）を使用する。 ・ 洗浄・乾燥後、排出する。 ・ キャップは必ず取り外し、トレイ類・表示のあるもので排出する。 ・ ラベルは外し、トレイ類・表示のあるもので排出する。 ・ ボトル缶は、かん類で排出する。
トレイ類・  表示のあるもの	週 1 回	小田原市又は委託業者	資 源 化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区ごとに指定する排出日を守り、集積場所に午前 8 時 3 0 分までに排出する。 ・ 集積場所は、収集後に清掃等を行い清潔の保持に努める。 ・ 排出形状は、透明又は半透明の袋（45ℓ 以下）を使用する。 ・ 洗浄・乾燥後、排出する。
か ん 類	月 1 回	委託業者	資 源 化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区ごとに指定する排出日を守り、集積場所に午前 8 時 3 0 分までに排出する。 ・ 集積場所は、収集後に清掃等を行い清潔の保持に努める。 ・ 排出形状は、透明又は半透明の袋（45ℓ 以下）を使用する。 ・ 洗浄・乾燥後、排出する。 ・ 一斗缶など大型缶は、燃せないごみで排出するが、ボトル缶はかん類で排出する。

びん類	月1回	委託業者	資源化	<ul style="list-style-type: none"> ・地区ごとに指定する排出日を守り、集積場所に午前8時30分までに排出する。 ・集積場所は、収集後に清掃等を行い清潔の保持に努める。 ・排出形状は、透明又は半透明の袋(45ℓ以下)を使用する。 ・洗浄・乾燥後、排出する。 ・乳白色の化粧品のびんなどは、燃せないごみで排出する。 ・リターナブルびんは、購入店舗等に返却する。
燃せないごみ	月1回	委託業者	破砕後選別 一部資源化	<ul style="list-style-type: none"> ・地区ごとに指定する排出日を守り、集積場所に午前8時30分までに排出する。 ・集積場所は、収集後に清掃等を行い清潔の保持に努める。 ・排出形状は、透明又は半透明の袋(45ℓ以下)を使用する。 ・びん・かん類は、分別し資源物収集等に出す。
蛍光灯 スプレー缶・ カセットボンベ 乾電池・ ライター ビデオテープ類 廃食用油	月1回	委託業者	一部資源化	<ul style="list-style-type: none"> ・地区ごとに指定する排出日を守り、集積場所に午前8時30分までに排出する。 ・集積場所は、収集後に清掃等を行い清潔の保持に努める。 ・排出形状は、それぞれの分類ごとに別々の透明又は半透明の袋(45ℓ以下)を使用する。 ・廃食用油は、ペットボトルに入れ、口をしっかりと閉めてから排出する。なお、ペットボトルに「食用油」「火気厳禁」と表示する。

大型ごみ	随時	委託業者	資源化	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に市に電話で連絡し、双方で定めた日の朝に収集作業が可能な戸外に排出する。 ・市の収入証紙により適正な手数料を負担する。 ・特定家庭用機器再商品化法の対象物については、原則として小売業者等へ引き渡す。 ・再利用可能な物は、リサイクルショップやフリーマーケットを利用するなど、排出抑制に努める。
------	----	------	-----	---

(2) 家庭ごみ（直接搬入ごみ）

種類	収集方法		処理処分方法	市民等排出者の協力義務
	回数	収集者等		
直接搬入ごみ	随時	排出者	焼却後埋立 又は破碎後 選別一部資源化	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り再生利用等の減量を行い、収集ごみに準じた分別をした上で搬入する。 ・市の定める日及び時間帯に搬入する。

(3) 事業系ごみ

種 類	収 集 方 法		処 理 処 分 方 法	市 民 等 排 出 者 の 協 力 義 務
	回 数	収 集 者 等		
特定ごみ	家庭ごみ (収集ごみ) に同じ	家庭ごみ (収集ごみ) に同じ	家庭ごみ (収集ごみ) に同じ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1月当たりの排出量は、300kg以内とする。 ・ 事前に市に排出見込量を申告する。 ・ 排出見込量に変更がある場合には、速やかに市に申告する。 ・ 一般廃棄物（可燃）のみを排出する。 ・ その他、家庭ごみ（収集ごみ）に同じ。
直接搬入ごみ	随時	排出者又は許可業者	焼却後埋立 又は破砕後選別、一部資源化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般廃棄物のみを搬入する。 ・ 可能な限り再生利用等の減量を行い、収集ごみに準じた分別をした上で搬入する。 ・ 生ごみについては、一般廃棄物処分業者に委託するなど、資源化に努める。 ・ 市の定める日及び時間帯に搬入する。
紙 類	随時	排出者、許可業者又は古紙回収業者	資 源 化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内の一般廃棄物処分業許可業者に直接搬入する。

(4) 動物の死体

種 類	収 集 方 法		処 理 処 分 方 法	市 民 等 排 出 者 の 協 力 義 務
	回 数	収 集 者 等		
動物の死体	随 時	排出者又は委託業者	専用焼却炉 で焼却	<ul style="list-style-type: none"> ・ 段ボール箱等に入れ、必要に応じて市へ申込みをする。 ・ 自ら搬入する場合には、市の定める日及び時間帯に搬入する。

(5) し尿及び浄化槽汚泥

種 類	収集方法	処理処分方法
し尿	区分に応じ、委託業者が収集する。	夾 ^{きょう} 雑物除去後希釈し、公共下水道に放流する。
浄化槽汚泥	申込みにより委託業者が収集する。	夾 ^{きょう} 雑物除去後希釈し、公共下水道に放流する。

5 適正処理困難物

適正処理困難物の指定（平成17年小田原市告示第98号）に定めるとおりとする。

6 排出禁止物

漬物石、灰及び枕木は、排出禁止物とする。

7 資源化量の見込み

品 目	資源化量
紙・布類	9, 918 トン
ペットボトル	578 トン
トレイ類・  表示のあるもの	1, 988 トン
かん類	457 トン
びん類	913 トン
蛍光灯ほか	261 トン
破砕後金属	688 トン
その他	2, 747 トン
資源化量合計	17, 550 トン

8 施設概要

(1) 焼却施設

施設名	所在地	形式	処理能力
小田原市清掃工場	小田原市久野 3 7 6 8 番地	全連続燃焼式	3 3 0 トン / 2 4 時間

(2) 破砕・資源化施設

施設名	所在地	形式	処理能力	
小田原市清掃工場				
可燃性粗大ごみ処理施設	小田原市久野 3 7 6 8 番地	せん断式 破砕機	3 0 トン / 5 時間	
リサイクルセンター (不燃ごみ資源化施設)	びん・かん選別施設 粗大ごみ処理施設	小田原市久野 3 7 6 8 番地 小田原市久野 3 7 6 8 番地	選 別 破砕後選別	1 5 . 8 トン / 5 時間 3 0 トン / 5 時間
ペットボトル減容施設	小田原市久野 3 7 6 1 番 4	圧縮後梱包	4 . 9 トン / 5 時間	

(3) 動物焼却施設

施設名	所在地	形式	処理能力
小動物焼却炉	小田原市久野 3 7 6 8 番地	バッチ式	5 0 0 kg / 5 時間

(4) 最終処分施設

施設名	所在地	埋立容量
堀ヶ窪埋立処分場	小田原市府川 7 8 6 番 2	8 7 , 8 3 8 m ³

(5) し尿希釈処理施設

施設名	所在地	処理方式	処理能力
扇町クリーンセンター	小田原市扇町 6 丁目 8 2 6 番地	前処理及び希釈 放流方式	2 0 0 kℓ / 2 4 時間